

平成30年度 黒瀬特支 校内授業研究会

小学部 授業研究会

日時	平成30年7月20日(金) 11:00~11:45
学年学級	小学部 第6学年A組
研究授業	生活単元学習 単元名 「夏の生活」
授業者	T1 教諭 西尾 久美子 T2 教諭 三船 晟
小学部研究テーマ	課題を発見し解決する意欲を育む分かって動ける授業づくり
協議の柱	児童の意欲や主体的な活動に繋がる支援、手立てはされていたか。
指導助言者	小学部主事 伊藤 加奈子

小学部の研究テーマ「課題を発見し解決する意欲を育む分かって動ける授業づくり」に関わって 授業者から

今回の授業は、後日の調理実習に向けて各自が買う物を決め、買い物の練習をし、振り返りをする活動であった。自分たちで買う物を決めることは児童が自ら選ぶことができた。買い物の練習では継続して経験を積み重ねていくことが定着につながると感じた。

VTR視聴 授業者から

C児が欠席。

学習活動3 野菜の苗を育ててきたことを振り返る。

- それぞれの児童が写真に写っている野菜の名前を答えていく。普段ならどの児童も答えることができると思われたが、緊張しており慎重になっていた。

学習活動4 ピザを作ることを知り、材料を考える。

- A児は写真を見て、何を買うのか決めることができたが、B児は緊張してなかなか前に出ることができなかった。

学習活動5 自分が買う材料を決める。

- それぞれの児童が前に出て、自分が買うものを選ぶことができた。

学習活動6 買い物ごっこをする。

- B児は行動に注目することが難しく、参観者が気になっていた。1回目はおつりとレシートを投げてしまったが、2回目は自分で財布の中におつりとレシートを入れることができた。

学習活動7 買い物ごっこを評価する。

- 自己評価と他者評価でそれぞれが友だちの評価をすることができた。

豪雨災害により、休校(4日)その後、繰り下げ登校(11時~2日間)だったことから、学習のリズムがつかみにくかったと思うが、どの児童も全体を通して集中し活動できた。

グループ発表

6人程度のグループ協議で意見を付箋で出し合って整理した。

良い点

- 児童が自ら気づいて活動するまで、教師が見守りをしていた。
- 振り返りの場面では、児童が相互評価のできる活動で学習意欲が高まると感じた。
- 小麦粉やピザソースの箱等の実物を使っての買い物練習は効果的だと感じた。
- ピザの材料選びや評価で児童が活動できる場面があった。
- レジのところに買い物の手順書があり、支援が充実していた。
- 野菜クイズや買い物のシミュレーションの活動があり、よかった。

改善点

- 教えたい内容を文字で提示し、T1とのやり取りを増やしてはどうか。
- 買い物ごっこの目的が分かりにくかった。擬似的体験を目的なのか、お金の計算が目的なのか。擬似的体験が目

的ならば、店員の服を用意したり、商品を増やしたりしてはどうか。

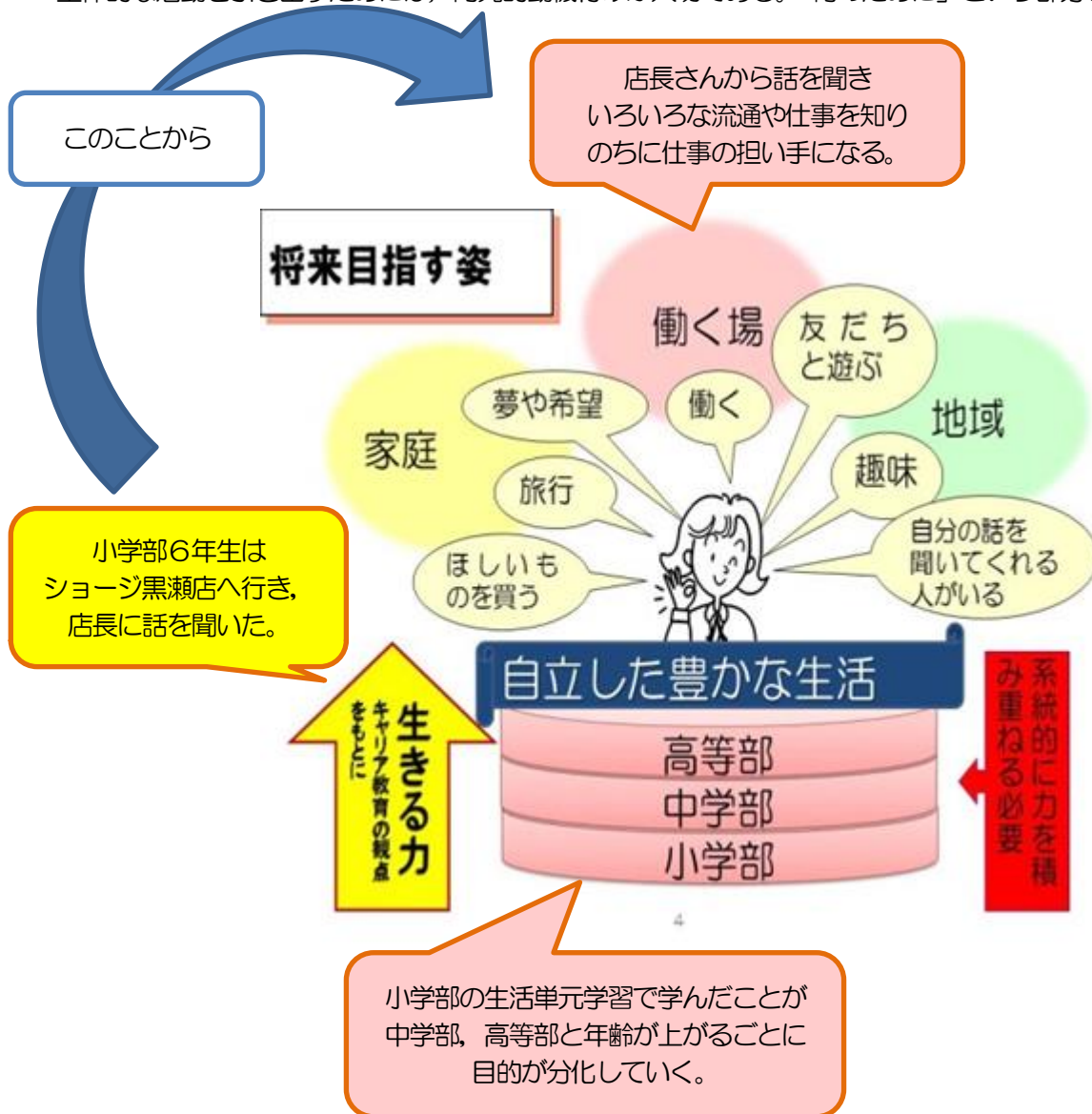
- レジが終わったら別の場所で商品を袋に入れる等、買い物の場面で主体的に動けるような動線にしてみてもどうか。
- 買い物のルールを伝え、何に気を付けるのか意識させたらどうか。
- 評価の場面で「何が○」で「何が△」なのか伝えてはどうか。教師からの評価がもっとあってもよかったのでは。
- 活動がたくさんあり、ポイントがどこか分かりづらかったので、活動を絞ってはどうか。

その他

- 姿勢が崩れやすい児童は、自立活動でも取り組んだらよい。
- シールを貼る、メモを書く等、児童の活動を増やしてはどうか。

指導助言者より

- 小学部だけでなく、中学部、高等部で協議することで、系統性を意識して協議することができる。
- 中学部や高等部で必要な力をつけるために、小学部の段階で何が必要かという視点ももてる。
- 主体的な活動を引き出すためには、内発的動機付けが大切である。「何のために」という部分を明確にしていく。



授業者より

- 学部関係なく協議をすることで、児童の課題を改めて考えることができた。
- 買い物の活動では、具体的に意見をもらい「こうしたらよかった」ということが分かった。
- 「課題を発見し解決する意欲を育む分かって動ける授業づくり」というテーマに沿って、何が課題か、どうすれば発見できるのか、また、解決するにはどうしたら良いかを児童一人一人に考えることができて良かった。